

2019 アジア選手権報告書

参加団体名：アイリスオーヤマ

氏名：大石 綾美

種目：LW1 × (3位)

1) レース前準備

予選2日前から大会会場での練習を始める。今回はスイフト社のアルミフロントウイング艇とクローカーのオールを現地レンタルした。スイフト艇とクローカーオールの使用は初めてであった為、リギング数値の確定までに時間が多くかかった。

2) レース展開・結果・反省点

予選の日は 7:30 コース開放と共に水上練習を行い、発艇 100 分前に体重計量へ向かう。問題なくクリアする。レースは早朝ということもありほぼ無風、アップゾーンは 1000m あり艇の数も少なくスムーズにウォーミングアップを行えた。予選レース2組目、スタートで出遅れるも 500m 地点で3艇が並ぶ展開、徐々に差が出来始めるも思うようにスピードに乗れず先頭に追いつけないままフィニッシュ。2着で予選を通過した。課題として艇やオールに気を取られ、勢いが欠けてしまった点を挙げる。

決勝レースまでの2日間、できる限りスイフト艇とクローカーオールに慣れ親しむことを目的に低SRでの基礎を中心に単発漕も取り入れた練習に打ち込んだ。

決勝の日は、朝から清々しい青空だが冷え込みが強い。発艇 120 分前に体重計量を問題なくクリアする。ウォーミングアップ時から風が吹き始め、風向きの変化が激しい気候になる。発艇2分前ごろから真逆の風向きになり、レースがスタートする。スタートは出遅れバウサイドコースで先頭を漕ぐ選手の気配は感じられない。ストロークサイドコースを漕ぐ選手もスタートから勢いよく発進したため、視界では後続の2選手しか様子を伺えない。前半は冷静に予選の課題と向き合いながら

艇を進めた。中盤に差し掛かっても視野には2選手しか入らず焦りが出始めて水しぶきが多くなる。1250m を過ぎてようやくストロークサイドコースの選手に追いつき3位でフィニッシュ。スタートから飛び出しリードを保ったままゴールした IRI 選手は終始力強く漕ぎ通し見事だった。熱い気持ちでこのレースに臨み勝ち切った彼女の姿勢に尊敬し影響を受けた。

3) 国際大会を経験して良かったこと・今後のボート人生への影響

今大会は使い慣れない道具で苦戦はしたが、コーチとの話し合いを重ねリギングや漕ぎの修正を繰り返し回り決勝へと臨んだ。このように決まった艇やオールをレンタルしてレースに臨むことは滅多にない経験だからこそ新しい発見が多くありボート競技の奥深さを知れたことで、視野も広くなったと感じる。とても貴重な日々を過ごすことができた。

又、オリンピックアジア大陸予選が行われる会場でレースができたことは重要な経験値となった。会場の雰囲気、風向きや水質などコースのコンディションを体感できたことは大きい。そして、今大会結果を受けてアジア諸国のレベルが上がっていると感じた。他国の漕ぎの技術も向上しているように見て取れた。情報として得ることよりも自身がその場で体感し、危機を感じることができたのはさらに先への新たな一歩へと確実に繋がった。

以上、報告いたします。最後になりましたが、60 人を超える大所帯を円滑にサポートくださった中村団長をはじめご尽力いただいた方々に感謝申し上げます。ありがとうございました。